

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 8月31日

【評価実施概要】

| | |
|-------|-------------------------------------|
| 事業所番号 | 3290400039 |
| 法人名 | 医療法人エスポアール出雲クリニック |
| 事業所名 | 認知症高齢者グループホームおちらと |
| 所在地 | 島根県出雲市小山町362-1 (電話) 0853-25-3968 |

| | | | |
|-------|----------------|-------|-----------|
| 評価機関名 | 有限会社 保健情報サービス | | |
| 所在地 | 鳥取県米子市西福原2-1-1 | | |
| 訪問調査日 | 平成19年7月19日 | 評価確定日 | 平成19年9月3日 |

【情報提供票より】(平成 19年 7月 2日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------------|--------|-------------------------|
| 開設年月日 | 平成 18 年 9 月 1 日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 9 人 |
| 職員数 | 9 人 | 常勤 | 9 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 5.42 |

(2) 建物概要

| | | |
|------|--------|-------|
| 建物構造 | 鉄筋 | 造り |
| | 3 階建ての | 2 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|---------------|----------------|-----|-------|
| 家賃(平均月額) | 35,000 円 | その他の経費(月額) | 円 | |
| 敷金 | 有(円) | 無 | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(100,000 円) | 有りの場合 償却の有無 | 有/無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 200 円 | 昼食 | 600 円 |
| | 夕食 | 400 円 | おやつ | 含む 円 |
| | または1日当たり 円 | | | |

(4) 利用者の概要(7月 2日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 9 名 | 男性 | 2 名 | 女性 | 7 名 |
| 要介護1 | 1 名 | 要介護2 | 3 名 | | |
| 要介護3 | 4 名 | 要介護4 | 1 名 | | |
| 要介護5 | 0 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 80.4 歳 | 最低 | 76 歳 | 最高 | 91 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|--------------------------|
| 協力医療機関名 | 県立中央病院、深田医院、白枝内科、ママレード歯科 |
|---------|--------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

出雲市の中心で精神科・心療内科クリニックを母体に昨年の9月1日に出雲市の小山に開設された。高次脳機能障害ケア・認知症ケア・小規模多機能型居宅施設が隣接する法人の建物が数種類ありその一角の3階だての2階部分にホームはある。“認知症を患っても住み慣れた地域での暮らしが継続できる社会の実現を目指す”を理念に掲げ 地域に向け出前講座「交流塾」を通じて認知症理解の勉強会を続けている。職員の殆どがその代表者と理念を共有し一体となって地域の意識改革に取り組んでいる。施設でのケア内容もその人の尊厳はもとより、その人の思いや出来る事を上手に引き出している。利用者の顔も明るく活動的で、地域のサークル活動(カラオケ・活花など)に参加し友人との再会を楽しみにしている方もある。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|---|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員に外部評価の意義・目的を伝え、全員で自己評価に取り組んだ。その段階で見出された課題について早速 家族にも協力を呼びかけて検討中。 |
| 重点項目② | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議には利用者や家族の参加もある。活動状況・利用者状況の報告。運営推進会議で得られた情報を即座に活かしながら利用者が地域住民の1人として地域の各活動に多く参加できるように支援している。“交流塾”の出前認知症講座は好評で地域に根ざしつつある、この活動を市町村とも連携して市町村全体の認知症理解が向上していくことに期待したい。 |
| | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会は息子の会・嫁の会・孫の会など多彩で家族の意見や希望を出し易い環境づくりをしている。施設内に“苦情解決制度のご案内”を掲示し、些細な事故でも“おちらと”便りで全利用者家族に報告し、お詫び・反省をして全職員への意識改革につなげている。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 定期的に続けている地域に向けた“交流塾”認知症理解の勉強会は好評、運営推進会議での情報から地域活動やボランティアに積極的に参加しているが、近隣の町内の受け入れはなかなか困難。今後は町内の自治会に入会し、回覧板を回しあって顔なじみになり、施設便りを利用して行事への住民参加を呼びかけ 近隣の住民が気楽に出入りできる双方向の関係を築かれることを期待する。 |

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|--|------|---|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 「認知症を患っても住み慣れた地域で暮らし続ける社会の実現を目指す」「物忘れを認め合い、仲間同士気楽に過ごしその場その場を楽しみ感動し、心豊かに意義のある時を過ごせる場の提供」等独自の理念を作り上げている。 | | 母体であるエスポアール出雲クリニックの院長先生を講師に、各地域に出向き「交流塾」を毎月1回夜開催し、認知症の勉強を通し理解を深める等、母体組織ともども取り組んでおられる。 |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 採用時や日々のミーティング、研修等を通し、パート職員をはじめ全職員に理念の共有が図られ、利用者とかかわりがなされていた。また理念を生かした実践の一つとして、毎日職員が交代でテーマを決めた活動プログラムが行なわれ、考察をするなど積極的に取り組みがなされている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 毎月定期的に続けている地域に向けた“交流塾”認知症理解の勉強会は好評、コミュニティセンターのサークル活動に参加(カラオケ・活花)、交通安全の日の朝の立哨、お寺の清掃ボランティアに参加、地域の小学校の授業公開日の見学など活発に活動し地元の人々と交流することに努めている。 | | 町内の回覧板を回しあつて顔なじみになり、施設便りを利用して行事への住民参加を呼びかけたりし、近隣の住民が気楽に出入りできる双方向関係を築かれることを期待します。 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | サービス評価の意義やねらいを管理者をはじめ全職員が理解しており、また家族にも伝え協力を呼びかけている。評価の結果について改善計画を作成し、質の確保やサービスの向上に努める体制が整っている。なお利用者にも話がされていた。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議には利用者や家族の参加もある。活動状況・利用者状況の報告。運営推進会議で得られた情報を活かしながら、利用者が地域住民の1人として地域の各活動に多く参加できるように支援している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|--|------|---|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 現在は運営推進会議での意見交換が中心となっているが、民生委員などの研修の場として事業所を活用してもらうことも取組始まっている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | 家族の来訪時には声をかけ暮らしぶりや健康状態の話しをしている。金銭管理については出納帳の提示とサインをもらっている。その他心身の状態に応じて連絡し、2ヶ月に1回おちらとだよりを発行し、日常生活が目の前に浮かんでくるような内容、家族会での感想文の紹介など等報告している。 | | おちらとだよりの題字は毎月順番に利用者を書く等独自の取り組みがここでもみられる。 |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 施設内に“苦情解決制度のご案内”を提示し、又些細な事故でも“おちらと”便りで全利用者家族に報告し、お詫び・反省をして職員への意識改革につなげている。 | | 誕生会には家族を招いているが、誕生者のいない月を利用して息子の会を開催し1回目は6家族7名の参加があり、息子さんが料理の腕を振るい、親子での夕食会、利用者からは息子さんへのメッセージが送られ楽しい時間を過ごされた。その後の家族会では孫さんをはじめ17人が参加する等、積極的に交流を深め家族等の意見が運営に反映されるよう努力がなされている。 |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員が代わるときは、引継ぎの期間を十分にとり、スムーズに移行できるようになっており、利用者には時間をかけてきちんと説明をし、ダメージを最小限度に抑える配慮がおこなわれている。家族には面会時やたよりで知らせ理解を図っている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 日常的に学ぶことを推進しており、法人内外での研修を積極的に取り組み、開設間もないのに法人外で事例発表をしたり、研修に意欲的である。また法人主催の「交流塾」にも、地域の人たちと共に参加し、研修を深めている。研修報告は全職員が閲覧できるようになっている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 出雲グループホーム連絡協議会が最近発足し、第1回の会議が開催され、ここでも事例発表をし、地域の同業者との交流や研修を通じ、サービスの質の向上状にむけた努力がなされている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|--|------|---|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | クリニックを中心に外来・デイケア・グループホームが隣接している。段階的に利用している利用者が多く、デイケア利用中に職員が出向いて関係づくりに努めたり、デイケア利用中に家族と一緒に事業所見学をしてもらいながら、双方に安心感を持ってもらうよう工夫している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 「利用者は人生の先輩である」という考えを職員が共有しており、支援する側、される側という関係でなくお互いが助け合い、支えあう関係が日常的に築かれている。毎朝利用者や職員がその日の気分を発表し、お互いを理解しあったり、利用者の得意分野で力を発揮してもらえよう、その日の役割を話し合い過う等きめ細やかな配慮がなされている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 毎日のプログラムの中で“認知症を患っている人”ではなく、1人の人として関わりながら利用者に直接 思いや希望などを尋ね把握に努めている。困難な場合は家族や関係者から情報を得ている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 家族会(息子の会、嫁の会、孫の会等)での意見や希望、家族訪問時の気づき等を取り入れ、又 毎日のプログラムで本人の思いを引き出し、日頃のかかわりの中から課題を見つけ出し職員全員で介護計画を作成している。 | ○ | 地域でその人らしく暮らし続けることを支えていくために、アセスメントを含め出来るだけ職員全体で意見交換やモニタリング、カンファレンスが行なわれるよう努めていただきたい。 |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 利用者の状態変化や本人の要望に合わせて随時家族等とも話し合い、職員全員で検討し見直しを施行しているがまだ十分でない。 | ○ | 介護計画のモニタリングをして、その結果をふまえ見直しをする一連の中で、会議録を作成することが望まれる。また日々のケア記録を工夫し、介護計画の実践がわかりやすいようにされるとよいと思う。今後利用者や家族が会議に出席できるよう働きかけられることを期待したい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|----|---|---|------|-----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用) | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 医療連携体制を活かして、利用者にとって負担となる受診の回避や、医療処置を受けながらの生活の継続がおこなわれている。また、図書館や公園など個別対応の外出やデイケアの送迎車に便乗してのドライブ、家族の代わりに受診の送迎・付添いなど支援している。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 事業所の母体となっているクリニックをかかりつけ医とする利用者に対しては週2～3回院長が巡回、なじみのかかりつけ医を希望する利用者や専門医への受診は原則家族対応だが、状況によっては職員が送迎・付き添いも支援している。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 「看取りの指針」を作成し入所時家族にも説明し、重度化や終末期にむけた方針の共有を、職員とともに図っている。対象者は開所後いない。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 全職員が利用者の誇りやプライバシーを損なうことのない対応の徹底がなされており、一人ひとりのプライバシーを守ったケアが実施されていた。また書類の管理も書棚のガラス戸にきれいな紙で目隠し工夫し個人情報の漏洩を防ぐ配慮をしている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりのその日にしたいことを、朝のお茶の時間にきき、その希望を白板に書き出し、その日の活動をみんなで話しあい決めておられた。職員の決まりや都合を優先することなく利用者が主人公となり暮らせる支援が行なわれていた。また全体の中に入れていない人には、職員がマンツーマンで寄り添い暮らしを支援しておられた。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|---|------|---|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 昼食は法人内から配達されるが朝、夕食、日、祝祭日はみんなで献立を決め、2～3日おきに買物にでかけている。食事づくりは毎回献立と共に作業内容を白板にかきだし、自分のやりたいことを決めてもらい、職員と利用者が楽しみながら準備や食事作り、片付けをしている。 | ○ | 職員は弁当やカップ麺等まちまちにもちより、同じ食卓で昼食をとっておられた。利用者と職員が同じ食卓を囲み、同じものを楽しく食べることの大切さを、利用者の目線に立ち意見を交換し、今一度検討していただきたい。 |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 本人の希望する日、希望する時間帯に入浴できるように配慮している。又仲の良い方同士の楽しい入浴や入浴を拒否があり、何日も入浴できない人を家族に協力してもらい、声掛けでスムーズに入浴できた事例もある。 | ○ | 朝風呂や夜間入浴等、今までの生活習慣や希望に合わせた入浴支援が行なえるよう、より家庭的な入浴を検討していただきたい。 |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 主役体験が中心の毎日のプログラムにおいて、利用者一人ひとりの得意分野から、毎朝の掃除・洗濯たたみ・ゴミ出し・ユニット内の活花・植木や苗の水やり等役割を持ってもらい経験や知恵を発揮してらえるような仕事を頼み、その都度、感謝の言葉を伝え、張り合いや喜びのある日々が過ごせるよう生活の支援がなされている。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 天気や利用者の気分、希望などから外出を計画したり、日常的な散歩や買物・ドライブなど利用者本意の楽しい時を提供できるように努めている。希望に沿った支援や、季節を肌で感じてもらいながら心身の活性につながるような、日常的な外出支援がなされている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 利用者が外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声をかけたり一緒についていき安全面に配慮をしながら、鍵をかけない暮らしを支えている。また落ち着きのない人はマンツーマンで対応をし、見守りながら鍵をかけないケアに取り組んでいる。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | マニュアルを作成し、先日1回目の火災訓練が消防署の協力、指導のもとに利用者と共に実施され、避難経路や消火器の使い方の確認がされた。今後定期的実施計画中。 | ○ | 災害に備えた備品の準備など早急に整えられることや、避難訓練の実施後は、その日の状況や反省を記録し、今後の避難訓練にいかしたりすることを望みます。また 地域の人々の協力が得られるよう地道な取組と運営推進会議などを活用が期待されます。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 嗜好や栄養に配慮しながら毎日の献立をきめ、3食の摂取量を記入、補食に気をつけるなど一人ひとりの健康面に気をつけている。水分もお茶の時間や外出、入浴後意識的に補給し、3ヶ月に1度血液検査により、悪化が見られる時は栄養士のアドバイスをもらうようにしている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | テレビやソファ配置、ついたてやベンチを活用し観葉植物で落ち着ける空間造りがされていた。利用者による季節の花の活花や金魚など生き物も五感の刺激へ配慮されていた。窓辺から見える向かい側の建物の脇のわずかな土地を利用した家庭菜園は生活感・季節感を十分に取り入れられるものだった。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人や家族と相談しながら、使いなれた馴染みの家具や道具を持参してもらったり、職員が引き伸ばした家族写真をはったり、本人が居心地よく過ごせるような工夫がなされている。本人の編んだ服や製図を飾ったり、携帯電話を持参したり、居室の入口には一人ひとり似顔絵があり居室の間違い防止にも、配慮がなされている。安心した落ち着いた空間づくりができていた。 | | |